



天朋太平記

拾二

~ 13
3315
12



門 八 13
3315
12

凡士濃工高とも夫の職分家業子固て描用の良物と云ふ
今日と管む夏世畧一級之然るに世字本の巻中ハ解り自
可種々の書入又ハ形之賞味もき本偶ハ感見甚
男女の陰翳を画き君臣父子の中や西と云ふ合
同多ク是黄必竟一時の興ノ象ノ著述者ノ
其職分此道是之癖付ハハ僻ト云リ著述者ノ
何をも只言語と云其遇ちと外免卷中ノ我画樂書
池田屋當以是を歎然不夏津一園て素代て諸君子所
磨石山人識

和漢

貸本所

東京牛込細工所
誠光堂

池田屋清吉

牛本
池清



天保十二年記卷十二

目次

一 將軍家治云御遊玄の事

天 重慶所沙伎免の事

一 西の如原所沙伎入城の事

天 春林政所沙伎味之事

天保十二年八月廿九日
本大書出版部
贈

牛本
池清

天明六年花巻千二

將軍高橋玄沙逝去の事

兼 友成河夜也免の事

海乳天所云丙午七月將軍高橋玄沙逝去

初八日風狂し由指ありれ也也也也也也也

故河内河也也也也也也也也也也也也也也

院良業術を存すもももももももももももも

させりか河也也也也也也也也也也也也也也

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

Vertical handwritten notes or signatures on the right side of the page.

乃故東廠山神の備手諸山は病来山平
愈し沙行務大真の諸山は病来山平
三所りめ之諸山は病来山平
沙行務所は病来山平
上茶法は病来山平
沙大病故沙高医小常法医也
沙脚寇度者ハ病来山平
其あり病来山平者あるは病来山平

白虎の門病所ハ病来山平
目見医人沙眼ハ病来山平
昔方ハ病来山平
昔方ハ病来山平
日向陶店ハ病来山平
日向陶店ハ病来山平
日向陶店ハ病来山平
日向陶店ハ病来山平
日向陶店ハ病来山平
日向陶店ハ病来山平

かゝる處に概持りて其の沙自見の跡
門例元中郷伴地り反初り沙山積
門中世元何きも成兼廣くとお借りり
海門曲葉之者ハ沙江沙法をゆめき
若林致順若沙葉若よあハ種之金
由道あもそを志海づ〜と云ふを極め
金も存るる如く若林致順沙脈竅の門
典葉方ゆハ何と女は病葉沙見之ゆ

似

何年ハ初合〜と葉極見仕度とあハ沙中
性元一祐若あ〜と及致順沙葉を
寂〜と見て驚るる怖め〜と〜と是ハ恐
あ〜とハ葉遠ハ沙曲葉方沙見之遠のと
あ〜とハ沙葉ハ縁場〜と〜と怪き者孩
瘦病〜と〜と葉あり恐あ〜と 將軍
女ハ病極〜と〜と田沼を〜とゆめ
沙曲葉方を角富〜と〜と

振あゝハ沙葉若上梅つゝゝゝ日故何の
解還もあゝ東門殿ノ葉若家沙
葉調合時ノ之匠ハ村中を以て其を云
食を〜子故ハ其地お解き及お鹿運
お解き〜若林政時沙葉調合仕置ハ
〜高野院沙葉若沙由村中を以て其
及新元甲斐及糖〜沙中調子其及
負系及及及葉若葉及沙葉仕置〜

時加及葉若葉及先時〜ハ沙葉ハ沙葉
葉の判相あゝ〜葉若〜及難〜
故等〜と〜既〜及既〜
及既〜及既〜及既〜向ハ〜沙葉
曲葉〜判あゝ〜と〜及既〜
葉ハハ方ハ〜葉ト〜葉上〜
〜葉若及〜ハ沙葉ハハ向
葉若〜及〜及既〜

沙薬信九代家へ入る新より一徳ハ我神沙
一益加及古及及人へ沙茶茶茶茶
沙中世影元平思及人へ信及信及若
林政明洞令一沙茶立日豆及り信及り
所造石上とと一和也表及り時及り信及り
所暖中痛お一水中役一向及り信及り
古有相神及り沙中病茶茶茶及り信及り
外一向及り信及り信及り信及り信及り

象一落氷を踏出のあり女中大奥へは
あつらふ沙粒を掃大の及り信及り
例元降日向を及り信及り信及り
女中沙茶遠あり信及り信及り信及り
を及り沙信とあり日向信及り信及り
信及り水水お掃及り信及り信及り
よる信及り信及り信及り信及り信及り
掃神及り信及り信及り信及り信及り

昨日とあるは引おん若林政順と云ふは茶
若と云ふは板門曲葉と云ふは沙薬若と云
退かしの馬と云ふは今日ハ沙大切ありと云
誰と云ふは唐と云ふは又一杯と云
計の力や取り集まるとの作ありと云
依て水地お持ちありと云ふは沙老母の
山形と云ふは沙形と云ふは何れ橋
作事と云ふは急と云ふは故作りと云ふは

有つと云ふは二箇の内池ありと云ふは
書字と云ふは中石川と云ふは宰相と云
沙と云ふは弟と云ふはと云ふは二箇内道と
て大桑と云ふは空と云ふは若れと云ふは苦痛と云
と云ふは幽と云ふはと云ふは何年と云ふは
跡と云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
涙と云ふはと云ふはと云ふはと云ふは
悲と云ふはと云ふはと云ふはと云ふは

家来 小石川へ飛が如くゆ致行方切也
 此河をよとゆ致中十日を六利水へ及お
 達をもく流法照より送帝命の事商
 着と女舟をよと致りて宰相友
 藤島より山河自負の情ごとくかませあり
 河馬よりて作是と致りて飛きたる者
 世櫻と誘もつと作是と河城の言に致
 世揚さるるつが神楽とて飛きたるの面く

河江を美谷の延徳とて馬より進有り
 河登城誰より人の中へ及る知者あり急
 ぎ大負の河入るに居張及初の丹序也
 河井林ありて河口語仲の序中河常書
 世福り四方切とて致進して河登城菊之間
 少と河對面作おと進りて相今あり知はぬ
 將軍あり河腦河ありて急流ありり急
 西月吾故中を急ぎ急急の固ありて急

日月青門考申ハハ口脈ニ帯斗あり御
藥調合ハ河舟橋法也お徳守合もあ
沙茶若よここるゆ有る薬由安水
度も中よりまが流るる及路一も
あく滑くまそ甘道与は危言中
〜赤面〜仰ありお徳守形〜
よま介門診は板也三脈滑く山馬あ板
あり時也門例危津田日向及門小

御産危沙中性危ゆ向ハ叔各あり何
や此目多危路若易あそ門典藥之医も
主及止ハ医同病も薬を及上一統
りをも石首尾眼病あり能くゆ解
あ〜と控序をま〜路も加及去
及水砂お徳守及友人はを搦るも
今津田あり一云り何ゆあ〜
門方切門も家様方の也神も依る我ら切

孫西あづー御三郎振替り中一話しむる及
孫を付果まづー河号々々々所仲
其人殿申ゆ終て高段ゆ及時ハ家形終
先祖ハ有者ありと云々氷地お替
さるハ史ハ其人さるの史或十人の
家唯一人ハ一と云々整あつて
さる時加及云及及何と悪医と引
孫ハ一と云々 將軍家ハ代界と付

大罪あり形の如き者付果まゆ何と云
まづき種々及及と合辨及及徳授を
形まづーと沙中納戸加及云及及沙中地
水地お替及及先是部合或十人及及
を付果まると云々水産宰相及及
利ハ一のた及及及及斗の罪及及
種及及及及及及及及及及及及
と及及及及及及及及及及及及

まゝに 將軍 西條 遊去 此道 なる方 有
あり 西條 榎 門 代 あり お成 せり 市 路 是
か 道 づ へ へ 海 へ なる 方 老 年 ぬ 及 あり 物
の さま なる あり 西 條 免 房 同 借 信
付 くる 西 條 へ 及 づ へ 作 あり 是
なる 故 一 云 へ 上 へ 海 へ なる 西 條 仕 合 有 事
と 西 條 ぬ 及 づ へ 門 代 へ 面 へ 年 本 事 是 事
情 せ 教 ぞ なる 事 づ へ 水 産 なる 作 あり 自

西條 榎 門 代 あり 是 あり 竊 ぬ 城 ぬ 及 是
は 西 條 ぬ 及 づ へ 門 代 へ 面 へ 年 本 事 是 事
も 西 條 ぬ 及 づ へ 門 代 へ 面 へ 年 本 事 是 事
は 西 條 ぬ 及 づ へ 門 代 へ 面 へ 年 本 事 是 事
は 西 條 ぬ 及 づ へ 門 代 へ 面 へ 年 本 事 是 事

西條 榎 門 代 あり 是 あり 竊 ぬ 城 ぬ 及 是
は 西 條 ぬ 及 づ へ 門 代 へ 面 へ 年 本 事 是 事
も 西 條 ぬ 及 づ へ 門 代 へ 面 へ 年 本 事 是 事
は 西 條 ぬ 及 づ へ 門 代 へ 面 へ 年 本 事 是 事
は 西 條 ぬ 及 づ へ 門 代 へ 面 へ 年 本 事 是 事

お借りの水産宰相及河内守の松本門
乃井修中多治井村東河内諸代々磨
河内評定西の松本門入城あり河内守は
乃井修中西の松本門入城あり河内守は
と河内守あり誰より人受りし者
あり故中へ先ご中へ入城しき者
作はる故中へ先ご中へ入城しき者
西へ先ご中へ先ご中へ入城しき者

河内守の松本門入城あり河内守は
乃井修中西の松本門入城あり河内守は
と河内守あり誰より人受りし者
あり故中へ先ご中へ入城しき者
作はる故中へ先ご中へ入城しき者
西へ先ご中へ先ご中へ入城しき者

野馬子及吾家茶及口今の所茶也
此茶もろの中より取給へるは
あり入用し茶の口取し
まはる野馬子及吾家茶
時ハ多々の人々種あり
子を考つて茶の道なる若
ハ清自印し茶の引替あ
り取中如き志し新茶は
時ハ多々の人々種あり
子を考つて茶の道なる若
ハ清自印し茶の引替あ
り取中如き志し新茶は

時曲則甲斐茶及政野
包ぎやん包ぎ茶
ふ一茶一茶
時ハ多々の人々種あり
子を考つて茶の道なる若
ハ清自印し茶の引替あ
り取中如き志し新茶は
時曲則甲斐茶及政野
包ぎやん包ぎ茶
ふ一茶一茶
時ハ多々の人々種あり
子を考つて茶の道なる若
ハ清自印し茶の引替あ
り取中如き志し新茶は

二平樂子一云清人蔵



天明三年紀卷十二

<p>近世小説 鳴田一郎實錄 五十二冊</p>	<p>開明小説 三田五人切實記 五十冊</p>	<p>相州奇談 真土村實錄 全</p>	<p>堀田先生編 造化色論 全</p>	<p>於百實傳 怪妖物語 百十冊 大尾</p>
<p>松村春輔著 三府藤栗毛 三編 大尾</p>	<p>春色先生編 世界大機 全</p>	<p>大尾編 誠光堂述</p>	<p>近世代 紀文實錄 二十冊</p>	<p>春風日記 全</p>

東京 書林

京橋跡左門町
牛込細工町
同

文永堂 大嶋屋傳左工門
誠光堂 池田屋利三郎
盛弘堂 池田屋清吉

